

大阪市立矢田西中学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配布・加算配布】実施報告書  
(補足説明資料)

【基本配布】

本校では（Ａ）キャリア教育の充実、（Ｂ）人権教育・道徳教育の充実、（Ｃ）ＩＣＴ活用による授業改善をねらいに、以下の年度目標をあげている。

- ①今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を 70%以上にする。
- ②校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を 90%以上にする。
- ③校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を 80%以上にする。
- ④校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を 90%以上にする。
- ⑤校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を 80%以上にする。

これらの目標達成のため、つぎの５つの取組を実施し、その効果を測る指標を設定した。またその達成状況は右のとおりである。

番号	取組内容	指標	達成状況
1	心揺さぶられる芸術や芸能に触れたり、体験することで、心豊かな人間性を育成する。 (芸術鑑賞の実施)	①校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答を 80%以上にする。  ②校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を 90%以上にする。	①校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答は 74.8%で未達成。  ②校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を 97.8%で達成した。
2	職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施し、生徒一人ひとりが将来の生き方を考える力を養う。 (1年生での職場訪問学習の実施)	③今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答を 70%以上にする。  ④校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答を 90%以上にする。	③今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答は 63.7%で未達成。  ④校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答は 89.1%でほぼ達成できた。
3	職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施し、生徒一人ひとりが将来の生き方を考える力を養う。 (2年生の校外学習での職業講話の実施)		

4	基礎・基本の習得につとめ、「問題が解ける」感覚を身につけさせる。 (学習サポーターを活用した学習支援)	⑤校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を80%以上にする。	⑤校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を90.9%で達成した。
5	I C Tを活用した教育を推進する。 (書画カメラを活用した授業改善)		

## 総論

年度目標に対する達成状況は、つぎのとおりである。

- ①今年度の全国学力・学習状況調査での「将来の夢や目標を持っていますか」の設問で肯定的回答は63.7%で未達成。
- ②校内生徒アンケートでの「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の設問で肯定的回答は89.1%でほぼ達成できた。
- ③校内生徒アンケートでの「楽しい学校生活を送っている」の設問で肯定的回答は74.8%で未達成。
- ④校内生徒アンケートでの命や人権の尊さについての設問で肯定的回答を97.8%で達成した。
- ⑤校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を90.9%で達成した。

以上の結果から、おおむね年度目標を達成できており、達成状況をBとした。

## 【加算配布】

本校では、生徒と教員の信頼関係のもと、学力向上に向けて様々な取組を行い、少しずつ成果をあげてきた。しかし課題として、家庭学習をはじめとして主体的に学ぶ力を身につけさせることがあげられ、自分一人で学ぶ姿勢や、仲間とともに深く掘り下げる力の育成が必要である。そこで、つぎの年度目標を設定した。

- ①中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ②校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を80%以上にする。
- ③校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ④校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習(予習)をしていますか」の設問で前年度より向上させる。

これらの年度目標達成のため、L L 教室を「学習センター」として再構築し、I C Tを活用しながら「主体的・対話的な深い学び」を推進する環境整備を図るとともに、「自習ができる場」の充実を図った。

- ・L L 教室の機器を教職員で撤去し、その床のタイルカーペットを張り替えた。
- ・テーブル付のチェアを配置し、グループ学習や様々な学習形態に活用できる。
- ・班に一台のボードスタンドやテーブルによって、グループワークを支援する。
- ・講演会等も想定してワイヤレスマイクを設置するとともに、電子黒板機能付きプロジェクタや大型モニターを配置して、様々な機器を活用した学習にも対応する。
- ・ブースデスクを 20 台購入し、15 台を自習スペースに配置した。残りは特別支援学級教室や学習室に配置した。自習スペースには書庫等を置き、学習教材を常備する。

上記の取組を実施することで、年度目標達成に向けた以下の取組内容を進めた。

- ・放課後学習や長期休業期間の補充・チャレンジ学習を実施し、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上に努める。
- ・各学年ともに週 2 回以上 I C T を活用した英語の授業を展開し、帯活動として Listening テストと小テストを週 2 回以上実施する。2・3 年生においては長文問題を意識した「読みトレ」を 2 年生 50 日分、3 年生 100 日分取り組む。
- ・I C T を活用した教育を推進する。

その効果を測る指標と、達成状況はつぎの通りである。

指標	達成状況
大阪府の中学生チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、前年度を上回る。	大阪府の中学生チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、前年度より 3 年+0.05、2 年-0.12、1 年+0.02 であった。
大阪市英語力調査（英検 I B A）における中学校卒業段階における英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 35%以上にする。	大阪市英語力調査（英検 I B A）における中学校卒業段階における英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合は 47.2%で達成。
全教科・全教員が I C T 機器を活用した授業を行う。	全教科・全教員が I C T 機器を活用した授業を行った。
校内アンケートでの「家で復習（予習）をしていますか」の肯定的回答を、昨年度 51.7%より 5 ポイント増加させる。	校内アンケートでの「家で復習（予習）をしていますか」の肯定的回答を、昨年度 51.7%より 9.8 ポイント増加した。

## 総論

年度目標に対する達成状況は、つぎのとおりである。

- ①中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、3 年 5 教科は 2.1 ポイント向上したが、2 年 3 教科は 0.3 ポイント下がった。
- ②校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答は 90.9%で達成。
- ③校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は前年度から 10.3 ポイント向上

した。

④校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習（予習）をしていますか」の設間で前年度より 9.8 ポイント向上した。

以上の結果から、おおむね年度目標を達成できており、達成状況を B とした。